

No.106 2016. 12. 13 <sup>あおじゅかい</sup> 会報「青樹会」 会報事務局 〒331 - 0825

中国内蒙古沙丘・草原緑化研究会 さいたま市北区櫛引町 2-574-2 GA 大宮 111 号  
代表 押田 敏 雄 押田 敏 雄 方(青樹会事務局長代行)  
(Tel & Fax 048 - 664 - 5884)  
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~aojukai/> e-mail:oshida@azabu-u.ac.jp

## 1. 「2017 年映画鑑賞会」と「新年会」のご案内



12 月も残すところ僅かになってきました。ここまで来ればもう、来年のことを言っても鬼に笑われなと思います。2017 新春も中国映画の鑑賞会を企画しました。日時は新年会と同じ日で、新年会の前に映画鑑賞会を開きます。

「初恋のきた道」で有名となった中国の巨匠・張芸謀(チャン・イーモウ)監督作品の中国映画『妻への家路』を上映致します。昨年見ました『単騎、千里を走る』も彼が監督をした作品でした。

記

日時:2017 年 1 月 14 日(土) 14:00~

場所:八重洲倶楽部(第 6 会議室)



### 解説

『紅いコーリャン』『秋菊(しゅうぎく)の物語』などのチャン・イーモウ監督とコン・リーが再びタッグを組み、文化大革命後の中国を舞台に夫婦の切ない愛を描くドラマ。20 年ぶりに解放された夫が、夫を待ちすぎて記憶障害となった妻に自分を思い出してもらおうと奮闘する様子を映す。ひたすら夫を待つ妻をコン・リーが、妻に寄り添う夫を『HERO』『インファナル・アフェア III 終極無間』などのチェン・ダオミンが演じる。いちずな夫婦の姿が感動的。

### あらすじ

革命と言うより史上最大規模の暴動として知られる”文化大革命”。死者は 40 万人とも 1000 万人とも言われ、被害者の数は 1 億人にものぼると言われている。各地で虐殺や略奪、破壊が起り、凄惨な様相を見せた革命の終結したのは 1977 年。収容所に投獄されていた陸焉識(ルー・イエンシー)は 20 年ぶりに開放され、愛する妻、馮婉玉(フォン・ワンイー)



チャン・イーモウ監督

の元へ帰る。しかし、妻は心労のあまり、夫の記憶を失っていた……

夫は一人、向かいの家に住む事を決め、娘の丹丹(タンタン)の助けを借



コン・リー



りながら、妻の記憶を取り戻そうと手を尽くす。収容所で書き溜めた何百通もの妻への手紙を、くる日も彼女に読み聞かせ、帰らぬ夫を駅に迎えに行く彼女に寄りそう。夫の隣で、ひたすら夫の帰りを待ち続ける妻。何よりも互いを求め合いながら、決して交わる事のない心が向かう先は果たして――

映画鑑賞会後の懇親会(新年会)については、八重洲倶楽部の近隣で開催することになりますが、現在、樋川さんが検討中です。決まりましたら、年賀状で各位に場所、会費などを連絡する予定ですので、暫くのご容赦をお願い致します…なお、映画、懇親会ともに参加者の人数把握を行いたいのので、12月25日ごろまで押田あてに連絡を頂ければ、幸いです!!

## 2. 中国の状況



＜中国の農村で「村ぐるみ」の集団詐欺が多発。地元で産業化も深刻＞

世界一の人口を誇る中国には、まだまだ私たちの知らない「事実」が山ほどあるようです。無料メルマガ『石平のチャイナウォッチ』によると、中国の農村部の集合体である「郷」の一部が、近頃「詐欺の郷」という不名誉な呼ばれ方をし始めているのだとか。地場産業の衰退などで食べていけなくなった郷が、どのようにして詐欺集団へと変貌を遂げたのか。メルマガ著者・評論家の石平氏が、この驚くべき現状を詳しく解説した。

＜オレオレ詐欺や偽証明書の偽造…もはや「地場産業」化した「郷」がはびこる中国＞

中国の国内メディアで最近「詐欺の郷」という言葉をよく見かける。農村部の村々の集合体である「郷」で、郷民の多くが詐欺集団と化し、郷ぐるみの詐欺犯罪を行う、という意味である。たとえば、江西省余幹県の江埠郷は、「子供を欲しがる貴婦人詐欺」の本拠地として有名である。

各地で発覚したこの詐欺とは「夫から莫大な遺産を相続した子を持たない貴婦人が、子作りのパートナーとなる若く健康な男性を大金で募集する」という嘘のメールを不特定多数に送り、釣られた人に「信用保証金」を要求するという手口である。これまで、この詐欺で、全国で捕まった360数人のうち、200人程度が江埠郷の石溪村と李家村の村民であることが判明している。2つの村の村民の大半が詐欺に関わっており、多くの場合、家族単位、あるいは親族単位で詐欺グループを作り、「貴婦人」、「弁護士」を演じる役割やネット情報を拡散する役割を分担し全国で暗躍してきたという。

遼寧省豊寧県の西官営郷が「詐欺の郷」との悪名をとどろかせたのは、「ヤクザを装う詐

欺」の本拠地となっているからである。中国では、遼寧省を含めた東北地方の「黒社会＝ヤクザ」が全国的に恐れられており、西官営郷の村民はそれを利用した。彼らは全国各地で「本物の東北ヤクザ」と装い、わざとぞんざいな東北弁を使って人々に恐喝の電話をかけ、お金をゆすりまくっているのである。

福建省安溪県の長坑郷は、「電信詐欺」と呼ばれる中国版オレオレ詐欺の犯罪基地として名をはせている。もともとウーロン茶の産地であるこの郷は経済低迷で製茶産業が凋落(ちょうらく)したなか、郷民たちは一斉に家族ぐるみ、あるいは村ぐるみの「詐欺産業」を起こしていったのである。

長坑郷の村々では、郷民たちが数十の詐欺集団を作った。各集団の中では、メールアドレスや電話番号などの個人情報不法な手段で入手する「情報組」、全国の個人に電話をかけまくる「電話組」、だましたお金を確実に受け取るための「集金組」を作り、日常業務としての詐欺活動を展開している。

最盛期に、長坑郷から発信されたオレオレ詐欺の電話とメールは1,100万本以上に上り、全郷住民3人のうち、1人程度がオレオレ詐欺の容疑で捕まった前科があるという。まさにその名の通りの「詐欺の郷」である。

湖南省双峰県の場合、それはもはや県内の郷ではなく、県全体が「詐欺の郷」と化していた。人口95万人程度の双峰県は、昔から偽証明書の製造が「地場産業」となっていたことで有名だが、数年前から「合成写真詐欺」が新たな産業として盛んになった。全国の党・政府の幹部や企業経営者の個人資料とその写真を収集してきて半裸や全裸の美女との合成写真を作り、本人に対して、恐喝とゆすりを行うのである。

国内有名紙の新京報が今年4月26日に掲載した記事によると、双峰県の「合成写真詐欺産業」は既に県民総出の一大産業となり、県内の走馬街鎮では、鎮民7万人のうち、少なくとも2万人が偽証明書作りか合成写真詐欺に従事したことがあるという。

以上は、最近中国で話題となった「詐欺の郷」のほんの一端である。一握りのならず者がひそかに犯罪を行うのではなく、1の村、1の郷、あるいは1の鎮全体において人々が半ば大っぴらに「詐欺という名の産業」を起こしているところに特徴があろう。(2016.10.25)



### 3. 会員からのたより

西敬史会員がある日のこと、緑化の旅の雑物を片付けていたあるメモ書きが出てきました。何時どこで書いたものやら全く憶えがなく、詩文?としても実に拙いものながら、どこか新鮮、やっぱりウーランアオジュ村だったのだと改めて思います。ご笑覧のほど!!!

<樹々の語らい>

- |                                                                   |                                                         |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 一 人間は知らないけれど<br>私達は話しているのです<br>目でも口でも耳でもない<br>いろんな器官で話が<br>出来るのです | 二 人間は知らないけれど<br>地中の会話で若芽を出すのです<br>真っ暗な闇は絶好の談笑の場<br>なんです |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|



三 人間は知らないけれど  
開花は私達の晴れやか舞台  
遅れた仲間には吹雪の  
合図を送ります

四 人間は知らないけれど  
青葉の騒ぎは絶頂のしるし  
時に枝葉をからませて  
互いの愛を語ります



五 人間は知らないけれど  
風と会話し紅葉するのです  
森や林の色取りは  
仲間の感性の表現です

六 人間は知らないけれど  
小枝を鳴らし落葉を告げるのです  
落葉の蒲団にくるまって  
厳しい冬に耐えるのです

七 人間は知らないけれど  
幾千年の風雪をいつも  
話しているのです  
神話の世界も知ってます

八 人間は知らないけれど  
私達の嬉しいこと悲しいこと  
時に人間のことも話します  
私達の会話がわからない限り  
どうしようもないってね

#### 4. 訃報

＜竹中良二氏のご逝去＞

内蒙古ツアーが10周年を迎えた時に参加された、広島県在住の竹中さんが6月15日にご逝去されたとの連絡がありました。竹中さんがツアーに参加された時は2004年で、この時に既に85歳なので、ご逝去された時には97歳でした。

その時に伺った話ではフフホトで5年間、日本語教師と競技馬術を教えていたとのことでした(会報27号:2004.9.13)。なお、2005年春ツアーの帰国報告会の際には広島から上京して、会に参加して下さいました。ここにご冥福をお祈り致します。



在りし日の南先生(右)と竹中さん(左)



マーチャに乗って(左:中川さん、後ろは樋川さん)

#### 5. 会報の原稿を募集しています

最近、気になること、私の提案、中国情報、その他なんでも原稿をお寄せ下さい。あて先は押田(oshida@azabu-u.ac.jp)へ、メールで戴けると幸いです。なお、メールが困難な場合にはfax(048-664-5884)か郵送で(331-0825 さいたま市北区榎引町2-574-2 GA大宮111号)押田敏雄までお願い致します。

